



2つの棺の痕跡

後円部に、木棺の痕跡が2つ発見されました。約1.2m離れて並んでおり、その位置により南棺、北棺と呼ばれています。

棺はどちらも、丸太をたて半分に割り、中をくり抜いて作った「割竹形木棺」^{わりたけがた}と考えられます。

少し大きめに墓穴を掘り、その中に棺を納めますが、北棺を納めるための墓穴は、南棺の墓穴の一部をこわして掘りこまれているため、南棺が先に納められたことがわかりました。



副葬品 (棺の中に納められたもの)

三角縁神獣鏡などの鏡、鉄製の刀や鍬^{やじり}などの武器、勾玉^{まがたま}などの装飾品など、約380点の副葬品が出土しました。

ヤマト政権の古墳で見つかる副葬品と種類が似ているため、ヤマト政権と深い関係を持っていたことがわかります。

北 棺

墓穴の大きさ

長さ 約10m 幅 約3.5m

木棺の大きさ

長さ 約7m 幅 約1m

てつぱ
鉄斧 (長さ11.9cm) (長さ19.9cm)

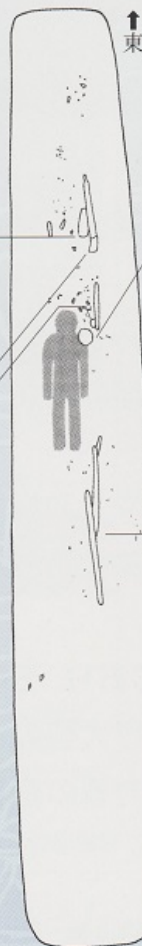


木の柄を
取り付けて使います。

ほうすいしゃ
紡錘車形石製品 (直径5.85cm)



織物の糸を作るための紡錘車に形が似ているためにこの名前がついています。
紡錘車として使ったかは不明です。



ねじもんきょう
掬文鏡 (直径10.2cm)



獣の形を省略した掬れた文様が描かれています。

へんけいそくとう
変形直刀 (長さ81.2cm)

刀の先端の両側に刃がついているため、この名前と呼ばれています。

柄に巻かれた布がよく残っています。